

測量技術の普及・発達へ

日測協道支部 業務報告会

日本測量協会
北海道支部（橋本幸支部長）は25日、「測量の日」特別記念講演に引き続き、札幌東急REIホテルで定時業務報告会を開催した。支部・本部主催の講習会として25講座を開催することなどを盛り込んだ本年度事業計画を確認し、測量技術の普及・発達に努めていくことを申し合わせた。



橋本支部長「写真」は、この日の朝に発生した地震について触れ、災害対応に

おける測量業界が果たす役割の重要性を強調。課題となっている人材不足に関して「アイコンストラクショ

長もあいさつに立ち、28日に開催された協会本部の第76回定時総会の内容について報告。引き続き協会活動への協力を呼びかけた。

続いて、開発局事業振興部の岡下淳部長、国土地理院北海道地方測量部の藤村英範部長、道建設部の塩田雅史技監が来賓あいさつ。

それぞれ立場から同支部の活動に期待を寄せた。引き続き、前年度の業務報告と本年度の事業計画を説明。本年度事業では、会員加入の促進、各種講習会の実施などを重点に活動することとし、講習会については25講座を実施する。また、来年3月17～19日に予定しているG空間EXPO 2027/地理空間情報

技術者の現況など共有

「測量の日」特別講演会

村上氏、橋本氏が登壇

日本測量協会北海道支部は25日、札幌東急REIホテルで「測量の日」特別講演会を開催した。写真。会員ら約120人が参加。

日本測量協会の村上真幸副会長が「測量技術者を取り巻く現況と測量近代化研究」、北海道大学大学院の橋本雄一教授が「GISと地理空間情報を用いた防災と教育」と題して講演を行い、さらなる技術研鑽および測量技術者の現況等につ

「不足が著しい」と強調。測量業以外の業務に就く測量士・補が存在しており「当て推量で3000人程度が他業務に就いている」と測量技術者を取り巻く現況を伝えた。

橋本教授は、地理空間情報の活用に関する国家計画の推移や北海道の津波浸水想定などについて説明。国家的な防災リテラシーの上昇に関し「文系と理系

が協力して知恵を出し合い、災害時の被害をどれだけ防げるか」と提唱した上で「まちづくりの中で協力して自助・共助を最適化する公助を考えなければならぬ」と防災の重要性を説いた。

